

## 平成 30 年度の川部会の活動進捗報告

### 1. 川部会の目標とテーマ

川部会の 3 ヶ年（平成 28～30 年度）の活動テーマを以下に示す。

<テーマ>	<解決手法>
<p><b>テーマ 1 :</b></p> <p>生き物の棲みやすい 川づくり（上下流問題）</p> <p>多様な物理環境と生物生 息環境の創出</p>	<p><b>本川モデル :</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>関係する取組み（矢作川総合土砂管理、天然アユ生態調査実行委員会、愛知県の河道保全対策等）における検討状況の把握と意見交換の実施</li><li>河川整備対策（河道掘削、樹木伐採等）に対しての事業者との意見交換</li></ul> <p><b>家下川モデル :</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>関係者との積極的な連携、意見交換</li></ul>
<p><b>テーマ 2 :</b></p> <p>地域の人々と川との関係 を中心とした、地先の課題 （河川空間の利用・保全の あり方）</p>	<p><b>地先モデル :</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>「流域圏担い手づくり事例集」作成活動への参加</li></ul>

<p><b>《3 ヶ年の目標》</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>●これまでの検討をもとに、他地区、他支川へのモデルとなる取組みをとりまとめ、流域圏全体に対して広く情報共有、情報発信していく。</li><li>●具体的な取組み箇所について、継続的なモニタリングと順応的管理を実践する。</li><li>●関係する委員会、自治体、団体と継続的に意見交換することにより、積極的な連携を進めていく。</li></ul>
---

## 2. 活動実績

活動内容	日時	場所	議題
第46回WG (豊田) 16名参加	5月25日(金) 9:00-12:00	豊田市崇化館交流館 第2会議室	○昨年度の川部会の成果と今年度の予定について ○合同部会について ○9年間の活動の成果のまとめと今後の活動の方向性について
第47回WG (豊田) 21名参加	7月27日(金) 13:00-16:00	豊田市崇化館交流館 第2会議室	○矢作川総合土砂管理計画について(国土交通省のとりくみ) ○分散型落差工について(愛知県のとりくみ) ○阿摺ダム下流アユ生息環境改善実験について(豊田市のとりくみ)
第1回合同部会WG (岡崎) 43名参加	8月24日(金) 13:30-17:00	岡崎市宮崎学区市民ホーム	○アサリの漁獲量減少と海の栄養塩に関する研究事例 ○水質浄化に関する最近の研究事例 ○電気伝導率からみた矢作川本川の水質実態と流域構造の特徴 ○矢作川中流域の水質 ー水質の長期変動と他河川との比較ー ○植生遷移に伴う水質の変化 ー東大演習林における事例ー
第48回WG (豊田) 16名参加	10月30日(水) 14:00-16:30	高橋上流～久澄橋下流	○河道掘削施工現場の視察
		豊田市崇化館交流館 第2会議室	○9年間のまとめについて
第49回WG (豊田) 17名参加	12月18日(火) 14:00-17:30	家下川	○家下川ウォーキング
		豊田市崇化館交流館 第1研究室	○9年間のまとめについて
平成30年度まとめの会 (豊田)	1月25日(金) 12:30～14:30	豊田市崇化館交流館 大会議室	・今年度の活動進捗報告 ・次年度の活動計画

※参加人数は事務局含む

### 3. 川部会 平成 30 年度の活動成果 まとめ

#### 本川モデル

成果①: 豊橋河川事務所から総合土砂管理計画の概要と現在の進捗状況について説明いただき、情報共有を行った。

成果②: 愛知・川の会の近藤氏から、愛知県における多自然型川づくりの実施状況について説明いただき、情報共有を行った。

成果③: 矢作川研究所の山本研究員から阿摺ダム下流でのアユ生息環境改善実験の概要と結果について説明いただき、情報共有を行った。

成果④: 矢作川本川で国土交通省が実施した高橋上流～久澄橋下流区間の河道掘削および樹木伐開施工箇所の現地視察を行い、環境への配慮状況について意見交換を行った。



高橋上流～久澄橋下流区間の河道掘削および樹木伐開施工箇所の現地視察

#### 家下川モデル

成果①: 矢作川環境技術研究会の野田氏のご協力を得て、「家下川 ～ 歩いて観る、診る、体感するエコツアー～」(末野原～上郷)を開催した。家下川の川岸を歩き、川の自然、風景を感じながら、川の魅力を知ることができた。また、三面張りのコンクリート護岸、ゴミの不法投棄など生活圏内を流れる河川としての問題点を把握することができた。



家下川新排水機場の工事現地視察

#### 地先モデル

成果①: 山部会 WG メンバーが主体となって取り組んでいる「流域圏担い手づくり事例集」作成活動について、昨年度に引き続き、川関係の活動団体を取り上げていただくとともに、川部会メンバーの有志が参画した。



事例集作成に関する打合せ

## 4. 活動方針に対する進捗状況と具体的な解決策の検討・提案

### 4.1 本川モデル

#### (1) 関係する取組みにおける検討状況の把握と意見交換を行う。

関係する取組みとしては、矢作川総合土砂管理、天然アユ生態調査実行委員会、愛知県の河道保全対策等とした。

##### ① 今年度の活動内容

- ・各行政機関から矢作川本川で取り組まれている河川整備、調査について、実施の経緯や進捗・検討状況について説明いただき、意見交換を行うことで情報共有に努めた。

#### ■国土交通省:矢作川総合土砂管理の報告内容

- 総合土砂管理計画の策定に向けて、技術的な課題を解決するための課題を整理するとともに、「目指すべき姿」に向けて、一次元河床変動計算や現地実験より土砂対策量(排砂量、掘削量など)を検討した。
- 課題解決に向けた取組みの一つとして、平成28～29年度に給砂装置(ベルトコンベア)を用いた土砂投入実験を実施した。

#### ■愛知県:多自然型川づくりの実施状況の報告内容

- 愛知県では平成2年から矢作川の環境整備計画の策定に向けた取組みをはじめ、平成3年には多自然型川づくりの一環として、コンクリートを使わない巨石の水制工を古巣地区に整備した。
- 愛知県でもアーマーコート化した河床環境を改善するための取組みとして土砂投入実験を実施したが、その影響は明瞭にはわからなかった経験がある。

#### ■豊田市矢作川研究所:アユの生息環境改善実験についての報告内容

- 矢作川では1990年代から急激にアユが釣れなくなってきており、その大きな要因は河床環境のアーマーコート化によって、アユがなわばりを形成しなくなったことにある。
- 阿摺ダムの下流において、矢作ダムに堆積した礫を活用して、アーマーコート化する前の柔らかな河床を創出し、アユの行動を観察する取組みを実施した。
- 観察の結果、実験区間内でアユの生息数が増加し、アユが餌とする付着藻類の生息量も増加したが、なわばりを形成するアユは少なかった。今後、どのような環境条件であればなわばりアユが増加するかを引き続き観察する。

##### ② 今後の課題

- 各行政機関が個別に取り組んでいる施策について、相互に連携・協働して実施できる仕組みづくり
- 各施策について、市民への情報発信と市民レベルの意見を取り入れる仕組みづくり

(2) 河川整備対策(河道掘削、樹木伐採等)に対して、事業者との意見交換を行う。

① 今年度の活動内容

**《国交省の河川整備対策に関する意見交換》**

- ・矢作川本川で国土交通省が実施した高橋上流～久澄橋下流区間の河道掘削および樹木伐開施工箇所の現地視察を行い、環境への配慮状況について意見交換を行った。
- ・視察当日は、内田座長と愛知工業大学の学生の協力により、施工後の河川区間内に生息する底生動物を捕獲するとともに、河床の安定性を示す造網性トビケラについて説明を受けた。

**【説明内容】**

- ◇平成12年9月の東海豪雨により、当該地区は、越水、漏水等の大きな被害を受けた。そのため、漏水対策護岸を順次実施している。
- ◇平成27年度より、豊田市街地区間の安全度を向上させるため、当該区間の河道掘削を実施した。平成30年度も引き続き、河川協力団体のご支援のもと樹木伐開を行うとともに、河道掘削を実施している。



**[施工写真]**

施工前



施工後



② 今後の課題

- 河川事業者と市民の意見交換を容易に実施できる仕組みづくり

## 4.2 家下川モデル

### (1) 関係者との積極的な連携、意見交換を行う。

#### ① 今年度の活動内容

- ・矢作川環境技術研究会の野田氏のご協力を得て、「家下川 ～ 歩いて観る、診る、体感するエコツアー～」(末野原～上郷)を開催した。
- ・家下川の川岸を歩き、川の自然、風景を感じながら、川の魅力を知ることができた。また、三面張りのコンクリート護岸、ゴミの不法投棄など生活圏内を流れる河川としての問題点を把握することができた。

#### 【参加者の感想】

- 良くも悪くも愛知県の河川改修の典型形式を見ることができ、川と氾濫域、地形的、歴史的なつながりが立体的に理解できた。
- これまで見たことのない家下川の上流区間を見ることができて良かった。
- 今回のような少し歩くことを中心とした体験型の活動を多くした方が良いと思った。
- 川の状態を見ながら、色々な生物を見ることができてよかった。
- 河川内のごみが多かったことが残念であった。
- 予想以上に水量と良好な水質が保たれているが、三面張りの水路は生物にとって良くない環境である。



#### ② 今後の課題

- 支川に関する情報(環境、利用、防災)の収集

### 4.3 地先モデル

(1)「流域圏担い手づくり事例集」作成活動へ参画する。

① 今年度の活動内容

- ・山部会WGメンバーが主体となって取り組んでいる「流域圏担い手づくり事例集」の作成活動について、昨年に引き続き、川関係の活動団体を取り上げていただくとともに、川部会メンバーの有志が参画した。
- ・取材を進める中で、取材対応者の活動の広がりや取材先同士の有機的なつながりを理解する手助けになっていることがわかった。

今年度の取材先における川に関する活動団体一覧

		取材先	取材者		
長野県			執筆者		
	飯田市				
		鶯流峡復活プロジェクト	近藤	浜口	曾我部
	根羽村				
		根羽川漁業協同組合	高橋	今村	
愛知県					
		愛知・川の会	吉橋	手塚	太田
	豊田市				
		岩本川創遊会	瀬川	近藤	
		豊田土地改良区資料室	清水	安井	
	安城市				
		内藤連三氏	内田	清水	
		安城市矢作川くんだり実行委員会	清水	太田	

② 今後の課題

- 川部会からの活動への積極的参加と活動団体への情報発信

# 川部会の設立 10 年目の活動計画

## 1. 今年度の活動目標

今年度は、9 年間の取り組みの成果をとりまとめるとともに、これまでのテーマについて、ひきつづき情報共有と意見交換を行う。9 年間の取り組みの成果としては流域圏年表の作成を想定している。

## 2. テーマ別の活動目標

### 2.1 本川モデル

- ・関係者（国交省、愛知県、豊田市、明治用水、中部電力、矢作川漁協）との意見交換  
→川部会メンバーが求める話題を WG で確認し、今年度の方針を決定する。
- ・土砂に関する議論からの望ましい像の提案  
→WG の中で意見交換を行う予定。

### 2.2 支川モデル（家下川モデル）

- ・岡崎市の乙川など、他の支川にも着目した WG の開催  
→名称を「家下川モデル」から「支川モデル」に変更予定。川部会メンバーに意見を聞く。
- ・水系の河川情報の集積（生物多様性の保全・川利用）
- ・市民主体による小さな自然再生の取り組み  
→岩本川の市民主体による多自然川づくりに注目する。

### 2.3 地先モデル

- ・名称を「地先モデル」から「地域連携モデル」等わかりやすいものに変更  
→川部会メンバーに意見を聞く。
- ・『流域圏担い手づくり事例集』作成活動への参加  
→10 年間の振り返りとして矢作川流域圏懇談会のメンバーや過去に参加されていた方に取材を行うことにより、これまでの矢作川流域圏懇談会の活動についてまとめていく方針である。  
編集委員の川部会担当者は近藤さんとなった（事例集交流会 2019 で決定）。  
→WG の中で川部会メンバーにも説明予定である。
- ・ごみの問題等の課題の解決に向けた市民への啓発